TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

2019/2020 Annual Cruise Report of the T/V Shioji maru Voyage : Contents

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2075

第四部
汐路丸航海調査報告

2019/2020 Annual Cruise Report
of the T/V *Shioji Maru* Voyage

目次

頁

1. 令和元年度（2019 年度）航海報告 ……3
1.1 概要 ……3
1.2 汐路丸要目表 ……6
1.3 研究員・学生人数 ……7
2. 航海実施表 ……8
3. 航海航跡図 ……9

Contents Page

1. Fiscal Year 2019 Cruise Report ……3
1.1 Annual Cruise Summary ……3
1.2 Ship Specifications ……6
1.3 The Number of Scientists and Students on Board ……7
2. Cruise Itineraries ……8
3. Track Chart ……9

1. 令和元年度（2019 年度）航海報告（Fiscal Year 2019 Cruise Report）

1.1 概要（Annual Cruise Summary）

練習船汐路丸は、東京を定係港とし東京湾、館山湾及びその周辺海域において実習航海及び実験航海等を行っている。

令和元年度（2019 年度）は、実習航海、演習航海、実験航海、教育関係共同利用航海、研修航海、入渠工事航海などで、延べ 112 日、4,078 海里航走した。

汐路丸 2 世の時から勝どき 5 丁目地先に専用桟橋を設置して運用していたが、周辺の防潮堤を整備することから移転をすることとなり、令和元年 7 月 19 日から月島ふ頭 F-6 岸壁に専用スペースを設けて運用することとなった。(Fig.1.1)

新 1 年生を対象としたフレッシュマンセミナー航海は入学式後の平成 31 年 4 月 6 日午前に海事システム工学科、4 月 7 日午前に流通情報工学科、同午後に海洋電子機械工学科が乗船し、東京港見学及び船内見学を通して海に隣接した大学を肌で感じさせた。(Fig.1.2)

実習航海は、海事システム工学科 3 年生、海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生、海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生及び流通情報工学科 3 年生を対象に実施した。

海事システム工学科 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前期は令和元年 5 月 21 日から 6 月 13 日の間、4 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、保安応急実習、当直実習など船舶運航の基礎、そして揚投錨操船を通じた運用術の総合的な習得を目的として実施した。

後期は令和元年 10 月 9 日から 10 月 18 日の間と 11 月 26 日から 12 月 5 日の間、前期同様 4 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行い、前期の実習項目の習熟と、海事英語の習得、船体運動自動制御実験、海洋気象観測の実習を目的とした。



Fig.1.1　月島ふ頭 F-6 岸壁に移転したポンツーンと汐路丸